



平成 22 年 2 月 24 日

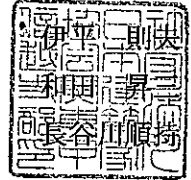
株式会社歌舞伎座 代表取締役社長 大谷信義様。

社団法人日本建築家協会 (JIA)

関東甲信越支部 支部長

同 保存問題委員会委員長

同 中央地域会 代表



「歌舞伎座」の保存活用に関する再要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴社におかれましては、日頃より歌舞伎芸能を通じて日本の伝統文化の継承と発展に、大いに寄与されてきたことに対し、当協会といたしまして深く敬意を表する次第です。また当協会の活動に、ご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当協会ではかねてより歌舞伎座の歴史的価値について検討し、2005年9月30日付にて貴社に「歌舞伎座」の保存活用に関する要望書を提出いたしました。そこに記しました建築物の重要性等は十分にご理解していただけるものと考えておりました。同年に貴社は「歌舞伎座再生検討委員会」を立ち上げられ、検討後公表された報告書における計画案も経済動向等により計画延期の公式発表が行われました。その後、報告書案を再度見直され歌舞伎座の保存活用を含めた計画案が発表される事を期待しておりましたが、貴社より発表された直近の案は、建て替えの上、高層のオフィスビルを併設するものでした。現在、さようなら公演と題され、盛んに興業をなさっていますが、その一方で、歌舞伎座が解体される事を残念がる方が多いのも事実です。戦災を受け、歌舞伎座復興に向けて、崩壊することなく残った外壁等を補強し、客席の吹寄竿縁天井、ホールの間接照明など当時として新感覚のデザインに見事に改修されました。これらは単なる改修ではなく、戦災でどん底にいた人々にとって将来の希望を与えてくれるものであったと推察します。復興にかける人々の想いを表現し、次世代に語り次ぐ歴史の足跡を残されました。その想いは今日の歌舞伎座を大切に使われる役者の方々をはじめ関係者及び御鼠辰様等の心にも伝わっていることと拝察します。劇場改修の事例では、ベルリン国立劇場、ニューヨークのカーネギーホールなど、その国を代表する劇場が、改修時に元の意匠や空間のイメージを色濃く残し付帯設備等（舞台裏、楽屋等）の充実を図ることで大切に保存活用され、人々の誇りとなっています。このように、劇場のオリジナルからアイデンティティを継承している事例もあり、現在の歌舞伎座にもそうした可能性が残されていると思料いたします。

計画案の完成予想図等では詳細までは不明ですが、全てを解体した上での素材の再利用や外壁のみの再生という手法では、継承できない大切なものがあり、現在の計画案では、日本の誇る劇場建築「歌舞伎座」と言うには不十分と考えます。どうか計画案を見直し、歴史的な遺産が保存・活用されるよう十分に再検討されることを強く要望いたします。

なお、私たち社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会及び同中央地域会は、上記実現のため、できる限りのご協力をさせていただき所存であることを申し添えます。

敬具